

ウィキペディア

加賀一向一揆

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』



この記事は検証可能な参考文献や出典が全く示されていないか、不十分です。

出典を追加して記事の信頼性向上にご協力ください。(2018年8月)

加賀一向一揆（かがのいっこういっき）とは、**長享2年（1488年）**頃から**天正8年（1580年）**にかけて、**加賀の本願寺門徒**らが中心となった信徒による**一揆**。

概要

蓮如は**文明6年（1474年）**から**文明7年（1475年）**までの間、**吉崎御坊**（福井県あわら市）に滞在した。蓮如は親鸞以来の**血脈相承**を根拠として、北陸の浄土系諸門を次々と統合していった。文明5年（1473年）には**富樫政親**の要請を受けて守護家の内紛に介入し、翌年には**富樫幸千代**を倒した。蓮如はこれによって守護の保護を受ける事を期待していた^[1]が、逆に政親は本願寺門徒の勢いに不安を感じて文明7年に門徒の弾圧を開始、蓮如は吉崎御坊を退去し、加賀の門徒は政親に追われて**越中**に逃れた。



蓮如上人の銅像

ところが、今度は**越中砺波郡**の**石黒光義**が政親と結んで門徒弾圧に出たところ、**文明13年（1481年）**に越中で一揆が発生し、光義が討ち取られる（**越中一向一揆**）。また、政親は加賀の一国支配の認知を目指して**9代将軍足利義尚**による**六角高頼遠征**（**鈎の陣**）に従軍したが、それに伴う戦費の拡大により、国人層が反発して越中から帰還した門徒とともに決起する。**長享2年（1488年）**には、代わりに**富樫泰高**を守護に擁立して、政親を高尾城に滅ぼした（**長享の一揆**）。足利義尚は一向一揆の討伐を検討したが、**細川政元**の反対と義尚の死により一向一揆討伐と六角高頼遠征は中止となった。以後、加賀に**宗主代理の一門衆**（**松岡寺住持蓮綱**・**光教寺住持蓮誓**・**本泉寺住持蓮悟**）が在住し、次第に国人層から本願寺による加賀支配に移行していった。

ところが、**永正3年（1506年）**に一向一揆を抑圧する周辺諸国への進撃を行って失敗（**九頭竜川の戦い**・**般若野の戦い**）した頃から、一門衆による統治に動揺を来たし始める。続いて本願寺中央が一門衆を抑圧しようとした事から、**享禄4年（1531年）**には**大小一揆**と呼ばれる内紛に発展して多くの一門衆やこれに従った国人衆が粛清された。**天文15年（1546年）**に**尾山御坊**（**金沢御堂**）が建設され、それを拠点として北陸全体に一向一揆を拡大させた。**弘治元年（1555年）**、**永禄7年（1564年）**に**朝倉氏**と、**1570年代前半**は**上杉謙信**と、その後は**織田信長**と対立した。**元亀3年（1572年）**は**杉浦玄任**を総

大将とする一揆勢が上杉軍と数ヶ月に渡って激突、各地で上杉軍を破るなど猛威を振るった。しかし謙信率いる上杉本隊が到着するに至り戦況が悪化し、尻垂坂の戦いで大敗を喫し、一揆の勢いに陰りが見え始める。

石山本願寺の降伏、尾山御坊の陥落により一揆は解体された。尾山御坊を攻略したのは佐久間盛政だった（一揆を沈静化させたのは前田利家だった、という説がある）。

脚注

- ↑ 長年、本願寺においては蓮如は平和主義者で一向一揆には否定的とされ、一連の一揆も側近の下間蓮崇の策動とされてきたが、近年の研究で同時期に蓮如が太刀を新調した（文明6年10月8日付門徒あての御文。それに相応すると見られる太刀は現在大阪歴史博物館にある）ことが明らかになっており、この時には主導的な役割を果たしていたと思われる（辻川達雄『蓮如と七人の息子』（誠文堂新光社、1996年）ISBN 4-416-89620-4 P95-107）。ただし、僧侶が刀剣を所持するのは数珠丸恒次という名刀を持った日蓮の例もあり、一向一揆と関係あるかは断定できない。

関連項目

- 洲崎慶覚 - 慶覚寺
- 河合宣久
- 十村制
- 高尾城 (加賀国)
- 山科本願寺
- 享禄・天文の乱
- 道の駅一向一揆の里
- 鳥越城

「<https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=加賀一向一揆&oldid=73766809>」から取得

最終更新 2019年8月7日 (水) 17:55（日時は個人設定で未設定ならばUTC）。

テキストはクリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンスの下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は[利用規約](#)を参照してください。